

平成28年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のための精選された教育課程編成 相互交流が可能な教育課程の設定 主体的な学習習慣の醸成 	3年生の選択科目の推奨パターンを検討する。専門学科の専門性を高めるための科目を検討する。主体的な学習習慣を身につけるための具体的な取組を検討する。	系別の進路実現に適した選択科目の推奨パターンを作成する。美術科の専門性を高めるための科目を設定する。併置を利用した融合可能な科目を検討する。日常の授業を通して主体的な学習習慣を身につけるための具体的な方法を検討する。	学年のニーズに即した選択科目の推奨パターンか。専門性を高めるとともに、設置可能な専門科目か。両科の交流を踏まえた科目の設置ができたか。主体的な学習習慣を身につけるための具体的な方法について検討したか。	3年の選択科目は、生徒の進路実現に適したものが作成することができた。美術科の専門性を高める科目の設置ができた。両科が共通で履修可能な科目の設置ができた。授業研究や教科会を通して、主体的な学習習慣を身につけるための具体的な方法話しあう機会を持つことができた。	生徒の希望を優先して選択科目を設置することから、時間割作成の上で、制限されることが多くなる。両科の理解を深めるためには、共通科目設置だけでなく、授業展開の中で併置の利点を認識する機会を設けることが必要と考える。多くの教員がもっと積極的に授業研究を行うために、意義と利点を具体的に周知する必要がある。	特色である美術科の専門性を高める科目が設置できたことには敬意を表する。美術科と普通科の交流や共同参加ができる機会があるとよい。主体的な学習習慣を身につけるためには進路目標を明確にさせることが有効である。	3年の選択科目を系別にパターン化したことで明確になり、生徒の選択が容易になった。進路が明確になっていない場合、迷うことが予想される。学科改編の内容を生徒及び教員に浸透し、お互いの理解を深めることが課題である。教員だけの努力でなく、生徒自身に主体的に学ぶことの意義を認識させる努力も必要である。	科目選択を的確にできるよう、早期に進路決定の機会(総合の時間やLHRなど)を多く設定するよう関係部署と連携を取るよう工夫する。美術科・普通科の積極的な相互交流を可能にするカリキュラムを検討する機会を設ける。主体的に学ぶことの利点に気づかせる仕掛けを工夫する。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 安全、安心の教育の推進 支援教育の推進 主体的な生徒会活動への支援 環境美化活動の推進 	頭髪、遅刻、服装指導、あいさつの指導を徹底する。交通安全、防犯意識を向上させる。いじめ防止に向けて重点的に取り組む。教育相談体制を充実させる。校外の行事において生徒会役員を中心として主体的・積極的に協力・連携を模索する。生徒の環境美化意識を向上させる。	学年主導による統一した指導を行う。全校集会、LHRにて、交通安全、防犯意識の向上に向け注意喚起する。いじめ防止アンケートの実施及びキャンペーン実施。職員間の情報共有を進める。学校行事、生徒会活動、部活動、委員会活動、ボランティア活動等を通して生徒の主体性、社会性、積極性を育成し、協働意識を高める。生徒の主体的な環境美化活動を支援する。作品展示等の活動を充実させる。	学年で統一した指導ができたか。交通ルール、マナーが向上しているか。いじめ防止に対する具体的な取り組みができたか。また、効果があったか。教育相談連絡会を利用して情報共有ができたか。主体的な生徒会活動を支援することができたか。生徒の環境美化意識が向上したか。主体的な展示活動がみられたか。	定期的な実施できた。交通ルールに対する生徒の意識は高まっている。いじめに関する授業を実施した。学年別に具体的に取り組んだ。週1回の教育相談連絡会に加え、学期初めに全職員で情報を共有する会を年3回実施し具体的な情報の共有ができた。各生徒会行事での活動に加え、地域の小学校・警察と連携して高校生による安全教室を企画・実施する等、積極的な活動を行った。	今後も継続していく必要がある。自転車教室以外の取り組みも必要である。いじめ防止アンケートはもっと工夫が必要である。多様な生徒に対する支援を充実させるために情報共有を密にした連携が必要である。生徒会による地域との連携を次年度以降も継続的積極的に行えるような環境を整備する。	については来年度以降もより充実した指導をお願いしたい。また、人権にも配慮した指導をお願いしたい。不登校の生徒などについてのケアもお願いしたい。生徒会による地域との連携も積極的に行えるよう指導してほしい。	根気よく指導を継続していく必要がある。いろいろな工夫をして、意識を向上させていく必要がある。生徒の人間関係の把握に努めていく必要がある。他学年の生徒の全体への情報共有の徹底および非常勤講師への生徒情報の伝達を密にする必要がある。部活動のみならず生徒の校外活動の定着を図りたい。	頭髪の指導基準を明確にする。効果のある交通安全教室を実施する。いじめの早期発見に努める。非常勤講師への情報共有をPCへの入力や打合せを設定することで密にする。生徒会役員による近隣小学校との連携事業を年中行事とした。また部活動として地域連携をより行うよう各部に依頼する。

3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多角的な視点を持ったキャリア教育の展開 生徒・保護者への情報提供機会の増加と相談体制の確立 	<p>総合的な学習の時間における課題研究の内容を向上させる。 希望進路別ガイダンスと提供情報の内容を充実させる。</p>	<p>自分の将来につながるような課題設定と研究から成果の発表までの指導を行う。 個々の生徒へのきめ細かな情報提供を行う。</p>	<p>課題設定から発表まで、すべての生徒が取り組めたか。 生徒のニーズに応じた情報提供ができたか。</p>	<p>修学旅行、職業観の確立や自己再発見などの課題に取り組み、発表まで取り組むことができた。 キャリアガイダンスの実施と、進路希望別の説明会を多数実施し、情報提供を行った。</p>	<p>将来の自らの生き方を考えさせる方法・手段の職員全体での共有化がまだ不十分。 特に3年で、進路希望が明確でない生徒への指導をもっと考える必要がある。</p>	<p>選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、主権者教育についても検討してほしい。 進路希望が明確でない生徒の指導は困難と思われるが、より一層努力をお願いしたい。</p>	<p>シチズンシップ教育も含めて、自らの在り方・生き方を考えさせる機会をさらに設定する。 担任・学年職員からの情報提供は出来上がりつつあるので、さらなる相談体制の確立を目指す。</p>	<p>より効果的な課題の設定と、その取組方法の検討を職員全体で行う。 学年の職員とキャリア教育グループ職員のコミュニケーションを密にし、生徒が相談しやすい体制を作る。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携し、新しい学科や学校の特色の浸透を図るとともに生徒の社会性を育成 地域との協働による幅の広い教育活動の展開 	<p>新しく設置される美術科や学校全体の魅力や特色を中学生や地域、保護者に浸透させる。 外部と連携した活動により生徒の社会性を高める。</p>	<p>学校説明会の日程や回数、説明内容を改善する。学校案内等の内容を工夫する。 地域での行事や外部講師を活用する。</p>	<p>学校説明会でのアンケートで「参考になった」の回答数が9割以上を維持できたか。 行事や講演会での生徒の満足度が9割以上を維持できたか。</p>	<p>5回の説明会を実施しアンケートで「高校選びの参考になった」という回答は86%～100%であった。 地域福祉施設と連携した講演会や企業・大学と連携した特別授業を実施したほか新たに百貨店との連携による行事など地域貢献活動も活性化した。また、大学でのワークショップや美術館との連携による活動、手話講座での外部講師活用なども進んだ。</p>	<p>学校説明の一環としての部活動体験の時期や方法が課題である。 満足度については数値的な把握ができるような検証方法を工夫する必要がある。外部との連携は中長期的な視点をもって取り組む必要がある。</p>	<p>特色の浸透や生徒の社会性の育成などの目標については、地域としても協力・支援していきたいので、声かけをお願いしたい。 地区センターの行事、地域のお祭りの手伝いなどはとてもありがたい。また、百貨店と連携した地域貢献はとてもよい。</p>	<p>学科改編のスタートに当たって特色を周知することは一定の成果をあげた。部活動体験の展開が課題になっている。 外部との連携による活動は新たな形での展開が進み、ノウハウを蓄積することができた。継続的・安定的な連携のあり方が課題である。</p>	<p>部活動体験の展開方法を早急に検討し、中学生が本校の特色をより理解できるようにする。 外部との連携について他の専門高校の先進事例などに学び、より効果的に展開する。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもと人権に配慮した生徒への対応を実践 安全・安心学校生活を送ることができる校内環境の整備 	<p>職員の様々な組織における人権意識を向上させる。 校内美化の徹底と危険箇所の改善を図る。</p>	<p>職員組織での人権をテーマとした話し合い、研修の機会を設定する。 清掃指導の徹底と危険箇所の情報収集を行う。</p>	<p>人権をテーマとした話し合いの機会を設定できたか。 清掃状況が改善されたか。危険箇所が減少したか。</p>	<p>人権をテーマとした職員研修会を開催することができた。 清掃・ゴミだし等、職員全体の統一した認識を持って指導に当たれた。</p>	<p>研修で学んだ内容の実践と振り返りを行うことができていくかの検証が必要である。 授業を受けやすい環境の整備が必要である。</p>	<p>人権問題はとても重要であり、今後の一層の取り組みをお願いしたい。 廊下や階段について、より一層清掃指導をお願いしたい。</p>	<p>人権意識が定着しつつある。さらに生徒と接する際の言葉や態度に現れるようにしたい。 清掃指導だけでなく、日頃から教室や廊下・階段等を汚さないような指導の徹底。</p>	<p>人権意識のさらなる定着に向けた職員向け啓発活動を実施する。 社会の一員としてのマナー指導、美化意識を持たせる指導を徹底する。</p>